

藤幡正樹《Light on the Net》を解読する

FUJIHATA Masaki: Decoding “Light on the Net”

登壇者：

飯田 豊(文化社会学／立命館大学産業社会学部准教授)

喜多 千草(コンピューティング史研究／関西大学総合情報学部教授)

篠原 資明(詩人、美学／高松市美術館館長)

モデレータ：松井 茂

テーマ

1996年にソフトピアジャパンセンタービル1階に設置された《Light on the Net》は、1995年が「インターネット元年」とも言われることから想像できるように、インターネットを活用したコミュニケーション・メディアの嚆矢ともされる作品です。ソフトピアジャパンが設立された際の共同研究であり、社会史的な観点からも注目されます。本作は、インターネット上で閲覧する、言わばメディア・イベント的なプロジェクトであり、現在から積極的に評価する観点を多く有する作品と考えられます。インフラストラクチャーを想像力とした作品の議論を通じて、社会的諸関係、メディア環境と芸術を再配置したいと思います。



《Light on the Net》(1996年)は、慶應義塾大学藤幡正樹研究室と財団法人ソフトピアジャパンの共同研究として、同センタービル、エントランスに設置された筐体と、インターネット上のホームページから構成されます。特定の時期の技術環境の中で、発見的に設計された装置と、参加者の同時代意識から構成された行為遂行的(パフォーマティヴ)な作品概念は、インターネットが日常生活に浸透した現在においてこそ問われるべき思想です。資料展示としては、電源を抜いたオフラインの筐体と、共同研究の報告書、作家自身のノート、プロジェクトに関わったメンバーによるレポート、新たに作家自身が編集した映像記録から構成。